

第1学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「本は ともだち むかしばなしを よもう」 教材名「おかゆの おなべ」

2 単元の目標

読書に親しみ、いろいろな本があることを知る（(3)エ）。昔話を読んで感じたことを友達と伝え合って共有し、好きなところを紹介するカードを、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書く（C(1)カ・B(1)ウ）。楽しんで読書をし、思いや考えを伝え合おうとする（学年の目標(3)）。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。（(3)エ）	①「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） ②「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。（C(1)カ）	①進んでいろいろな昔話を読み、学習の見通しをもって、好きなところを友達に知らせるカードを書こうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

本単元は、昔話を読んで好きなところを友達と伝え合い、いろいろな昔話の本を手にとって、紹介するカードを書く単元である。学習指導要領第1学年及び第2学年の〔知識及び技能〕(3)エ「読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることを中心に、C(1)カ、読んで感じたことを共有することと、B(1)ウの、語と語や文と文との続き方に注意して書き表し方を工夫することを合わせて指導する。言語活動は、読むことではC(2)イ「読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動」、書くことではB(2)イ「日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動」に当たる。

「おかゆの おなべ」は世界の昔話の一つで、出来事が順に起こっていく筋なので、好きなところを選びやすく、そのわけも話しやすい。この教材を入り口に、学校図書館や学級文庫で日本や世界の昔話の本を選んで読み、いろいろな本があることを知る。日本の昔話を選んだ子にとっては、(3)ア「昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと」とも結び付く。第3学年及び第4学年では、幅広く読書に親しみ、読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付く学習（(3)オ）へと進む。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

指導に当たっては、次の三つを大切にする。まず、好きなところは一つに決めさせず、わけを話せることを大切にする。わけが「おもしろいから」の一語で終わる時は、「どこが」「どうして」を先生が聞き返して言葉を引き出す（C(1)力）。それから、紹介カードは「だいめい」「でてくるひと」「好きなところ」「わけ」の欄に分け、「好きなところは、…ところです。わけは、…からです」の型で、文と文のつながりが分かるように書かせる（B(1)ウ）。そして、学校図書館の昔話の本を多めにそろえ、日本の昔話と世界の昔話の両方を手に取れるようにする（第3の2(3)）。読み合いでは、友達のカードを読んで「よんでみたくなった」昔話に付箋を貼り、この後の読書につなげる。

カードは、好きなところの文とわけの文が並んで書かれ、文の続き方が分かる物を「おおむね満足できる」状況、わけにお話の中の出来事や自分の経験を挙げている物を「十分満足できる」状況の目安にする。

5 指導と評価の計画（全8時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○知っている昔話を出し合い、先生の昔話の読み聞かせを聞く。 ○学習課題「好きな むかしばなしを みつけて、カードでともだちに しらせよう」を立て、学習の進め方を知る。	態①（発言・観察）
	2	○学級文庫や学校図書館の昔話の本を手に取り、日本の昔話と世界の昔話があることを知る。 ○読んでみたい昔話を見付け、読書記録に題名を書く。	知①（読書記録・観察）
第2次	3	○「おかゆの おなべ」を読み、出てくる人と、だれが何をしたかを確かめる。	
	4 （本時）	○「おかゆの おなべ」の好きなところとそのわけを話し、友達の好きなところと比べて、同じ所や違う所に気付く。	思②（発言・ワークシート）
	5	○紹介カードの書き方（だいめい・でてくるひと・好きなところ・わけ）を確かめ、「おかゆの おなべ」でカードを書いてみる。	思①（試しのカード）
第3次	6	○選んだ昔話を読み、紹介カードを書く。	思①（カード）
	7	○カードを声に出して読み返し、言葉や文のつながりを直して仕上げる。	思①（カード） 態①（観察）
	8	○カードを読み合い、読んでみたくなった昔話に付箋を貼って伝え合う。 ○学習を振り返る。	思②（付箋・発言） 知①（読書記録） 態①（振り返り）

6 本時の指導 (4/8)

(1) 本時の目標

「おかゆの おなべ」を読んで好きなところとそのわけを話し、友達の好きなところを聞いて、同じ所や違う所に気付くことができる。(C(1)力)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	1 前の時間に確かめた、出てくる人とお話の順番を、場面の絵 (先生が教科書から用意する) で思い出す。 2 先生が「おかゆの おなべ」を読む。子どもは、好きなところで手をあげる。 ○「すきなところはどこですか」 【めあて】すきなところとわけを はなして、ともだちと くらべよう。 〈予想される児童の反応〉 ・おなべから、おかゆが どんどん 出て くる ところ。 ・おかゆが とまらなく なる ところ。 ・さいごの ところ。	・場面の絵を黒板にお話の順に貼り、好きなところを絵で指せるようにする。 ・好きなところは一つに決めなくてよいことを伝える。 ・子どもの反応の例は、使う教科書の場面に合わせて先生が書き直す。
展開 (分)	3 好きなところの絵に名前の札を貼り、そのわけをワークシートに書く。 (型)「わたしの すきなところは、…ところです。わけは、…からです」 4 ペアで、好きなところとわけを話す。聞いた人は「おなじ」か「ちがう」かを言い、わけを一つ聞く。 ○「ともだちの すきなところは、じぶんと おなじでしたか。ちがいましたか」 5 全体で、同じ場面を選んだ子のわけを比べ、違う場面を選んだ子のわけを聞く。 ○「おなじ ところが すきでも、わけは おなじでしたか」 〈予想される児童の反応〉 ・おかゆが いっぱい 出て きて、びっくりした から。 ・ぼくも おかゆが すきだから。 ・おなじ ところだけど、わけが ちがった。 ・ともだちの わけを きいて、そこも すきに なった。	・わけが書けない子には、「その ところを きいて、どんな きもちに なったかな」と聞き、話した言葉を先生が書き取って見せる。 ・書くのが難しい子は、話すことを先にし、ワークシートには「…ところ」だけ書けばよいことにする。 ・ペアの話し方は、先生と子ども一人が前でやってみせてから始める。 ・全体では、同じ場面を選んだ子を二、三人指名し、わけの違いを板書に並べる。 ・お話の言葉を板書する所は、使う教科書から先生が書き入れる。 ・登場人物のよい・わるいを決める話になった時は、好きなところとわけの話に戻す。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ （ 分）	6 友達と話して、新しく好きになったところや、同じ・違うで気付いたことを話す。 7 振り返りを書く。 〈予想される児童の反応〉 ・となりの ともだちと おなじ ところが すきだった。 ・ちがう ところを えらんだ ともだちの わけを きいて、そこも いいなと おもった。	・振り返りは「ともだちと おなじ だった こと・ちがった こと」を一文で書かせ、書けない子は話した言葉を先生が書き取る。 ・次の時間は好きなところを書いたカードを作ることを伝え、本時のワークシートをカードのもとに使えることを知らせる。 ◎思② 文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。（発言・ワークシート）

（３）板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に日付、題名、めあて。その左に、場面の絵（先生が教科書から用意する）をお話の順に右から左へ貼る。それぞれの絵の下に、その場面を好きと言った子の名前の札を貼る。中央に、同じ場面を選んだ子のわけを並べて書き、「おなじ ところ・ちがう わけ」が分かるように線で囲む。その左に、違う場面を選んだ子のわけ。左端に、話す時の型（「わたしの すきな ところは、…ところです。わけは、…からです」）と、振り返りの書き出し。1年生がこの時期に読める字で書く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
 みえ先生ラボ

